

IV 企画開催報告

教師のゼミ室(地理)

「地理の授業をどう作るかー地理総合必修化に向けたヒントー」

大野 新 (大東文化大学)

松宮 邑子 (埼玉大学)

飯塚 和幸 (明治大学附属中野中学・高等学校)

1. 日時

2022年2月19日(土) 16時～18時

2. 開催方法

Zoomによるオンライン開催

3. 参加者数

29名(うち学生9名)参加

明治大学教育会会員並びに明治大学で教員免許状取得を目指す学生及び科目等履修生

4. 発表者略歴

◆ 大野 新

明治大学文学部史学地理学科地理学専攻卒業、同大学院文学研究科地理学専攻博士前期課程修了。桐朋女子中学・高校、筑波大学附属駒場中学・高校(副校長)を経て、現在は大東文化大学文学部歴史文化学科特任教授(明治大学文学部非常勤講師を兼任)。専門分野は社会科教育、地誌学。

◆ 松宮邑子

明治大学文学部史学地理学科地理学専攻卒業、同大学院文学研究科地理学専攻博士後期課程修了(博士(地理学))。現在は埼玉大学大学院人文社会科学研究科専任講師(明治大学文学部非常勤講師を兼任)。専門分野は人文地理学、モンゴル地域研究。

◆ 飯塚和幸

明治大学文学部史学地理学科地理学専攻卒業、同大学院文学研究科地理学専攻博士前期課程修了。現在は明治大学附属中野中学・高校専任教諭。専門分野は社会科教育、植生地理学。

5. 発表の概要

◆ 大野 新「地理総合とはどのような科目か」

4月から始まる地理総合の内容とねらいについて考えた。今回の地理総合では、地図・地理情報システム (GIS)、国際理解と国際協力 (SDGs)、持続可能な地域づくりと私たち (防災教育) がおもな学習分野となっている。今回、地理総合が必修化された背景として、災害の増加により地理を学ぶ重要性が高くなったこと、グローバル化の進展によって世界の動向を知る必要性が増したこと、GIS など社会のデジタル化が進んだことなどがあげられる。地理総合の授業づくりのポイントとして、高校で地理を学んだ経験のない方が地理教材をどのように集め授業をつくるか、現在の現場教員の方々に地理プロパーでない方が地理の授業に抵抗なく取りこんでいただけるかなどがあげられる。最後に今後の地理教育の視点として、人の顔が見える地理教育、地域の課題に迫り解決法を模索できる地理教育、現代世界や日本の地域像を形成できる地理教育、平和・人権など日本国憲法の理念をもとにした地理教育を指摘した。

◆ 松宮 邑子「“身近でない国”をどう取り扱う？」

諸外国・地域の学習に際し、教科書の限られた紙幅では必然的に情報が限定される。そこで報告者のフィールドであるモンゴル国を事例に、従来の地理教育におけるいわゆるマイナーな国の取り扱われ方の課題ならびに改善にむけた一案を紹介した。地理関連の教科書では、気候区分やそれに対応した生業の説明時にモンゴルが登場し、草原の写真とともに遊牧生活が解説される。近年はそのような「一般的なモンゴルの姿」との対比として、都市への人口集中を「問題」と言及する記述も増えている。こうした断片的な情報は、ある面ではモンゴルに対するステレオタイプのイメージの形成を助長している。以上の指摘をふまえ、当該国に精通していない授業者でも使用可能な情報源として、国立民族学博物館が提供する「みんなくパノラマツアー」やテレビCM、SNS など、オンラインツールの有用性を示した。

◆ 飯塚和幸「地図の学びを生かした防災学習」

地理総合では、「地図・地理情報システム (GIS)」が柱の1つである。地図や地理情報システムに関する授業で重要なことは、地図そのものを理解することに留まらず、読図力を養い、その地域にどのような特徴があるかを理解することである。地図や地理情報の重ね合わせを行うだけ (分布図を作成するだけ) でなく、重ね合わせた結果から、特徴を理解することとなる。このことはGISを活用する場合も同様である。

地形図の学習をする際は、主題図の作成 (地形段彩図や土地利用図) を行い、あわせて自治体が出しているハザードマップなどの理解も深めていくことが大切である。地理院地図や今昔マップなどを活用して、身近な地域の変遷を理解し、その土地の特徴を知り、自分たちの生活 (特に防災や減災) に生せることを示した。

6. 参加者の感想

<参考になったこと>

- ◆ 授業資料の集め方が特に参考になった。コロナの影響でフィールドワークが厳しい状況の中で、オンラインで正確な情報が集めやすくなっていることはある意味良いのかと思う。
- ◆ 各先生がたがどのような事例・資料を参考に実践・研究されているか知ることができ、参考になりました。理論に加え、今昔マップやみんなのサイトなど、具体例も多くお教えいただいたことが大変ありがたかったです。
- ◆ 先生方のお話から、もし地理を教えることになった時に必要な視点を知ることが出来ました。地理院地図の存在は知っていたのですが、他にも今昔マップやみんなのサイトなど、具体的な教育支援ツールが存在することに気づけて嬉しいです。情報の取捨選択や比較の重要性もよく分かるものでした。
- ◆ どこまで専門性を教えられるのか、そもそも専門性とはなんなのか。自分は地理が必修でなかったこともあり、やはり不安もありますが、地理の目指す力を伸ばすために出来る指導のヒントを貰えたと感じています。
- ◆ バーチャルミュージアムやCMを教材として活用できること。
- ◆ デジタル地図の活用方法、身近でない地域の扱い方法が参考になった。
- ◆ SNSを活用することで、身近でない国の情報を集めることも可能であること。
- ◆ 学習指導要領において地図・GISを扱うのは地理総合でのみになっていること。
- ◆ 生徒が作成した主題図の例
- ◆ 3人の方それぞれが、別なアプローチからお話をいただき、大変興味深く拝聴いたしました。特に、松宮先生のお話は目からウロコでした。教科書や資料集の記述、インターネットの情報等だけを鵜呑みにせず、自分の目で、耳で様々な資料を検証することを、今後も心掛けていきたいです。
- ◆ 今後の地理教育において重要なキーワードや視点、フィールドワークや地図作成、情報収集の意義や大切さについてのお話しです。生徒たちに地理を学ばせるにあたって、様々な取り組みを行えることを知れた上、留意すべきことも知り、念頭に置きながら地理教育を行っていきたいと感じました。

<企画全体への感想>

- ◆ 私は地理が専門ではないのですが、とても興味深い内容でした。普段地理の授業づくりをしないので、とても新鮮で楽しかったです。教科書だけの情報ではかなり偏った知識になってしまうことから、フィールドワークや現地の情報を収集することで、教科書だけの知識ではなく『生きた』知識になっていくのだな、と実感しました。また、どの教科でも教員がテーマをしっかりと設定することで、生徒の学びがより良いものになるように思いました。本日はありがとうございました。
- ◆ 地理において難しい場面である「地図の活用」や「各国地誌」の扱いについて、各発

表者から実践例・検討例をお伺いすることができた点が良かったです。本日は貴重なお話をありがとうございました。

- ◆ 自身が世界史の専攻で、地理に関して不勉強なところがありましたので、まず大野先生から地理総合全般についてお話しいただいたことで理解が深まりました。その後多くの事例を交えつつ、お二人の先生方からお話しいただきましたが、他の科目にもぜひ応用させていただきたいと思います。皆様ありがとうございました。
- ◆ コロナ禍にも拘らず地理専門の先生方から大事な視点をお話しいただけるという貴重なイベント開催に感謝しています。zoomということもあって、参加を前向きに検討することが出来ました。お忙しいところ体制を整えていただきありがとうございました。
- ◆ 現在、地理の授業を持っており教材集めが難しいと感じていたが、今回の研修会で活用できるものがたくさんあることを知れてよかった。
- ◆ 授業作りのためのさまざまなヒントを得ることができました。ありがとうございました。
- ◆ 地理総合の必修化で盛り上がっていても、詳しい内容や現在の地理の授業での実践例までうかがえる機会は少なかったので大変参考になりました。
- ◆ 大学入試で重要とされ、覚えた内容には大学の授業においてほとんど扱わなかった内容もあり、高校の「地理」と大学の「地理学」の間には溝があり、地理学専攻出身者なら地理の授業が作りやすい、ということはないのではないかと感じていたのですが、地図作りなど「地理学」を学んでいたからこそ作りやすい授業もあるように感じました。
- ◆ 興味深い内容でタイムリーな企画だったと思います。同じ地理学専攻の同窓として、誇らしく思いました。
- ◆ 地理教育を熱心に考え、様々な情報を得ることができ、とても有意義な時間となりました。準備をしてくださった先生方に、この場を借りて御礼申し上げます。